

鎌倉画廊の企画で私の作品が展示されることになったのだが、このさい展示物についていところかの説命をお許し願いたい。

それというのも、事物世界は、動的な運動態であって、決して静的な自己同一性ではない。と思っっているからです。つまり事物は時間の内に息衝いているのが事実だからです。

こんな思っは作品に現れていきます。

鏡の作品などはその典型です。作品は刻々と変化し酸化しているはずですが、だから、きのうが本当の作品なのか、明後日が本当なのか、なぞと考えることは出来ません。その根拠はどこにもありません。

リングの写真があります。

私はリングをかじって食べました。そして写真を撮りました。撮られた写真には私に食べられなきが口が写っています。私はそのなきが口についてぬいりリングの表面を描いて修繕しました。

これリングとは事柄を孕んだ事物性であり、



このリニゴは時間を被っている。ということ
です。

川の字真があります。一見靜的に見える
川の流れる、実は数びよう後には全部カメラ
前を通りすぎて行ってしまいます。

これは時間を被る。というよりは、ほとんど
瞬間そのものではないでしょうか。

飯内 昭二

